

## 研究成果の紹介

## 5 ポインセチア疫病（新称）の発生

## ねらいと成果

2003年8月、兵庫県南部で、ポインセチアの葉柄、茎が灰褐色に変色し、落葉する症状が発生した（図1）。この原因を追及した結果、土壌病原菌の仲間である*Phytophthora nicotianae*によることが判明したため、日本植物病理学会で発表し、「ポインセチア疫病」と呼称することを提案した。日本での発生は初めてで、発生拡大が懸念されるので、その特徴等について紹介する。

## 内 容

## 1 被害の様子

葉、葉柄、茎、苞などが灰褐色に変色し、病気が進展すると黒褐色となる（図1）。更に進展すると株全体が萎凋し（図2）、最後には枯死する。

## 2 病原菌

*Phytophthora nicotianae* van Breda de Haanという卵菌類の一種である。植物遺体又は土壌中で生息する。遊走子は遊走子のう内で分化

し（図4）、遊走子のうは卵形から球形で突起は顕著（図3）、雌雄異株で*Phytophthora nicotianae*交配型A1と有性器官を形成し、造卵器は造精子に底着する。生育温度は10～35℃であり、かなり高温性の菌である。

## 3 伝搬様式

水や泥がはねる際に一緒に飛散し、遊走子が侵入感染する。遊走子のうが直接発芽して感染することもある。また、ポインセチアは挿し木苗で増殖されることから感染苗からの持ち込みの場合もある。

## 防除の留意点

かん水の際、水滴の跳ね上がりをさせないように、底面かん水あるいはドリップかん水などを行う。また、本菌に汚染されたほ場では栽培しない。防除薬剤としては花き類の疫病にメタラキシル粒剤（商品名リドミル粒剤2）が登録されており、効果が高い。

神頭 武嗣（農業技セ・病虫害防除部）  
（問い合わせ先 電話：0790-47-1222）



図1 赤い苞葉部分や茎、葉柄の病徴（接種による）



図2 ポインセチア疫病病徴（葉柄及び茎の褐変、萎凋）



図3 *Phytophthora nicotianae*の遊走子のう



図4 遊走子と遊走子のう（矢印は放出孔を指す）